

表 3. 性・年齢別の異常行動・異常言動発現頻度

	異常行動・異常言動発現頻度 n / N (%)					
	全異常行動・異常言動		異常行動・異常言動 A		異常行動・異常言動 B・E	
性						
男	656 / 5,106	(13)	26 / 5,096	(0.5)	620 / 5,070	(12)
女	470 / 4,560	(10)	9 / 4,552	(0.2)	453 / 4,543	(10)
年齢 (歳)						
0	6 / 133	(5)	0 / 133	(0.0)	6 / 133	(5)
1	54 / 444	(12)	3 / 443	(0.7)	50 / 440	(11)
2	68 / 432	(16)	1 / 431	(0.2)	66 / 430	(15)
3	75 / 509	(15)	2 / 508	(0.4)	72 / 506	(14)
4	116 / 751	(15)	2 / 747	(0.3)	110 / 745	(15)
5	115 / 788	(15)	0 / 786	(0.0)	113 / 786	(14)
6	127 / 887	(14)	4 / 886	(0.5)	122 / 882	(14)
7	148 / 843	(18)	5 / 842	(0.6)	142 / 837	(17)
8	103 / 848	(12)	3 / 847	(0.4)	99 / 844	(12)
9	94 / 766	(12)	4 / 765	(0.5)	89 / 761	(12)
10	84 / 719	(12)	3 / 718	(0.4)	80 / 715	(11)
11	64 / 640	(10)	4 / 637	(0.6)	57 / 633	(9)
12	40 / 620	(7)	1 / 619	(0.2)	38 / 618	(6)
13	20 / 566	(4)	2 / 566	(0.4)	18 / 564	(3)
14	7 / 388	(2)	1 / 388	(0.3)	6 / 387	(2)
15	4 / 162	(3)	0 / 162	(0.0)	4 / 162	(3)
16	1 / 98	(1)	0 / 98	(0.0)	1 / 98	(1)
17	0 / 70	(0)	0 / 70	(0.0)	0 / 70	(0)
不明	0 / 2		0 / 2		0 / 2	
計	1,126 / 9,666	(12)	35 / 9,648*	(0.4)	1,073 / 9,613†	(11)

* 解析対象 9,666 人のうち、異常行動・異常言動の有無に「あり」と回答したが A・E の分類が欠損値であった者 (18 人) を除外。なお、異常行動・異常言動 B・E を発現した者は「異常行動・異常言動 A なし」と扱った。

† 解析対象 9,666 人のうち、異常行動・異常言動の有無に「あり」と回答したが A・E の分類が欠損値であった者 (18 人)、異常行動・異常言動 A を発現した者 (35 人) を除外。

表 4. 特性比較

表 4-1. 性・年齢

特性		オセルタミビル		P 値 *	不明	
		服薬あり	服薬なし		オセルタミビル	オセルタミビル
		(N=7,438)	(N=2,228)		服薬あり	服薬なし
男	n (%)	3,924 (53)	1,182 (53)	0.806	0	0
年齢	平均 ± 標準偏差	7.5 ± 3.9	8.4 ± 4.0	<0.0001	1	1
	中央値 (範囲)	7 (0 - 17)	9 (0 - 17)	<0.0001		
<10 歳	n (%)	5,117 (69)	1,284 (58)			
≥10 歳	n (%)	2,320 (31)	943 (42)	<0.0001		

* 連続変数のうち、「平均 ± 標準偏差」表記については Student の t 検定、「中央値 (範囲)」表記については Wilcoxon の順位和検定。カテゴリー変数についてはカイ 2 乗検定。

表 4-2. 経過時間 (1)

特性		オセルタミビル 服薬あり (N=7,438)	オセルタミビル 服薬なし (N=2,228)	P 値 *	不明 †	
					オセルタミビル 服薬あり	オセルタミビル 服薬なし
最初の発熱→初診 (時間)	平均 ± 標準偏差	12.8 ± 13.7	14.9 ± 16.8	<0.0001	144 (26)	65 (13)
	中央値 (範囲)	11 (-81 - 96)	12 (-72 - 95)	0.001		
	<0‡ n (%)	340 (5)	118 (5)			
	≥0 n (%)	6,954 (95)	2,045 (95)	0.131		
	平均 ± 標準偏差	13.8 ± 12.7	16.2 ± 15.9	<0.0001		
	中央値 (範囲)	12 (0 - 96)	13 (0 - 95)	<0.0001		
最初の発熱→オセルタミビル服薬 (時間)	平均 ± 標準偏差	18.5 ± 14.1	—	—	618 (35)	2 (1)
	中央値 (範囲)	17 (-69 - 94)	—	—		
	<0§ n (%)	60 (1)	—	—		
	≥0 n (%)	6,760 (99)	—	—		
	平均 ± 標準偏差	18.7 ± 13.8	—	—		
	中央値 (範囲)	17 (0 - 94)	—	—		
初診→オセルタミビル服薬 (時間)	平均 ± 標準偏差	5.8 ± 11.2	—	—	600 (28)	2 (2)
	中央値 (範囲)	2 (-95 - 80)	—	—		
	<0 n (%)	194 (3)	—	—		
	≥0 n (%)	6,644 (97)	—	—		
	<0 平均 ± 標準偏差	14.3 ± 14.7	—	—		
	中央値 (範囲)	11 (-95 - 0)	—	—		
	≥0 平均 ± 標準偏差	6.4 ± 10.5	—	—		
	中央値 (範囲)	2 (0 - 80)	—	—		

* 連続変数のうち、「平均 ± 標準偏差」表記については Student の t 検定、「中央値 (範囲)」表記については Wilcoxon の順位和検定。カテゴリ変数についてはカイ 2 乗検定。† 括弧の中は、不明数のうち、経過時間の計算上 ±96 時間以上であったために不合理であると考え、「不明」として取り扱った数。‡ 初診後に最初の発熱があった者。§ オセルタミビル服薬後に最初の発熱があった者 (例: 咳・咽頭痛・鼻汁など、発熱以外の症状で受診し、処方されたオセルタミビルを服薬後に発熱)。|| オセルタミビル服薬後に初診した者 (例: 初診前に夜間診療所でオセルタミビルを処方され服薬。兄弟に処方されたオセルタミビルを服薬)。

表 4-3. 異常行動・異常言動発現頻度

特性		オセルタミビル		P 値*	不明	
		服薬あり	服薬なし		オセルタミビル 服薬あり	オセルタミビル 服薬なし
全異常行動・異常言動		N=7,438 [§]			N=2,228 [§]	
あり [†]	n(%)	840	(11)	0.046	0	0
うち、オセルタミビル服薬後に発現したことが明確な者 [‡]	n(%)	777	(93)	—		
異常行動・異常言動 A		N=7,527			N=2,121	
あり [†]	n(%)	28	(0.4)	0.777	0	0
うち、オセルタミビル服薬後に発現したことが明確な者 [‡]	n(%)	25	(89)	—		
異常行動・異常言動 B-E		N=7,394 [¶]			N=2,219 [¶]	
あり [†]	n(%)	796	(11)	0.024	0	0
うち、オセルタミビル服薬後に発現したことが明確な者 [‡]	n(%)	742	(93)	—		

* カイ 2 乗検定。

†‡ これらの差は、オセルタミビル服薬と異常行動・異常言動発現の時間的前後関係が不明の者。

§ 解析対象 9,666 人（表 3：「全異常行動・異常言動」の計。うち、オセルタミビル服薬あり：7,545 人、オセルタミビル服薬なし：2,121 人）のうち、異常行動・異常言動発現後にオセルタミビルを服薬した者 107 人を「服薬なし」として取り扱ったため、オセルタミビル服薬あり 7,438 人、オセルタミビル服薬なし 2,228 人となった。

|| 解析対象 9,666 人のうち、異常行動・異常言動の有無に「あり」と回答したが A-E の分類が欠損値であった者（18 人）を除外（9,648 人、表 3：「異常行動・異常言動 A」の計。うち、オセルタミビル服薬あり：7,529 人、オセルタミビル服薬なし：2,119 人）。なお、異常行動・異常言動 B-E を発現した者は「異常行動・異常言動 A なし」として取り扱った。さらに、異常行動・異常言動 A 発現後にオセルタミビルを服薬した者 2 人を「服薬なし」として取り扱ったため、オセルタミビル服薬あり 7,527 人、オセルタミビル服薬なし 2,121 人となった。

¶ 解析対象 9,666 人のうち、異常行動・異常言動の有無に「あり」と回答したが A-E の分類が欠損値であった者（18 人）、異常行動・異常言動 A を発現した者（35 人）を除外（9,613 人、表 3：「異常行動・異常言動 B-E」の計。うち、オセルタミビル服薬あり：7,499 人、オセルタミビル服薬なし：2,114 人）。さらに、異常行動・異常言動 B-E 発現後にオセルタミビルを服薬した者 105 人を「服薬なし」として取り扱ったため、オセルタミビル服薬あり 7,394 人、オセルタミビル服薬なし 2,219 人となった。

表 4-4. 経過時間 (2)

特性			オセルタミビル	オセルタミビル	P 値 *	不明 †	
			服薬あり	服薬なし		オセルタミビル	オセルタミビル
			(N=7,438)	(N=2,228)		服薬あり	服薬なし
最初の発熱→全異常行動・異常言動 (時間)	平均 ± 標準偏差		29.6 ± 17.8	26.9 ± 18.3	0.026	52 (5)	10 (4)
	中央値 (範囲)		26 (-54 - 95)	23 (-3 - 87)	0.003		
	<0‡	n (%)	3 (0.4)	1 (0.4)			
	≥0	n (%)	785 (99.6)	275 (99.6)	0.966		
	平均 ± 標準偏差		29.8 ± 17.5	27.0 ± 18.2	0.020		
	中央値 (範囲)		27 (1 - 95)	23 (0 - 87)	0.003		
初診→全異常行動・異常言動 (時間)	平均 ± 標準偏差		18.8 ± 16.8	16.7 ± 16.2	0.066	48 (1)	7 (1)
	中央値 (範囲)		13 (0 - 86)	11 (1 - 90)	0.022		
	≥0	n (%)	792 (100)	279 (100)	—		
	平均 ± 標準偏差		18.8 ± 16.8	16.7 ± 16.2	0.066		
	中央値 (範囲)		13 (0 - 86)	11 (1 - 90)	0.022		
オセルタミビル服薬→全異常行動・異常言動 (時間)	平均 ± 標準偏差		13.1 ± 14.2	—	—	64 (1)	1 (1)
	中央値 (範囲)		9 (0 - 82)	—	—		
	≥0	n (%)	776 (100)	—	—		
	平均 ± 標準偏差		13.1 ± 14.2	—	—		
	中央値 (範囲)		9 (0 - 82)	—	—		

* 連続変数のうち、「平均 ± 標準偏差」表記については Student の t 検定、「中央値 (範囲)」表記については Wilcoxon の順位和検定。カテゴリー変数についてはカイ 2 乗検定。

† 括弧の中は、不明数のうち、経過時間の計算上 ±96 時間以上であったために不合理であると考え、「不明」として取り扱った数。

‡ 全異常行動・異常言動発現後に最初の発熱があった者。

表 4-5. インフルエンザワクチン接種、インフルエンザの診断型

特性		オセルタミビル		P 値 *	不明	
		服薬あり	服薬なし		オセルタミビル	オセルタミビル
		(N=7,438)	(N=2,228)		服薬あり	服薬なし
当該シーズンのインフルエンザワクチン接種回数					150	53
0 回	n (%)	4,466 (61)	1,410 (65)	0.011		
1 回	n (%)	580 (8)	157 (7)			
2 回	n (%)	2,242 (31)	608 (28)			
迅速診断キットによるインフルエンザの診断型					3	1
A 型	n (%)	4,017 (54.0)	973 (43.7)	<0.0001		
B 型	n (%)	3,293 (44.5)	1,223 (54.9)			
A・B 型両方	n (%)	24 (0.3)	7 (0.3)			
型識別不能	n (%)	67 (0.9)	18 (0.8)			

* カイ 2 乗検定。

表 4-6. 最初の発熱時の体温、報告期間中の最高体温

特性		オセルタミビル		P 値 *	不明	
		服薬あり	服薬なし		オセルタミビル	オセルタミビル
		(N=7,438)	(N=2,228)		服薬あり	服薬なし
最初の発熱時の体温 (°C)	平均 ± 標準偏差	38.3 ± 0.7	38.2 ± 0.7	<0.0001	48	12
	中央値 (範囲)	38.3 (36.3 - 41.0)	38.2 (36.4 - 40.8)	<0.0001		
<37.5	n (%)	683 (9)	267 (12)			
37.5 - 37.9	n (%)	1,502 (20)	521 (24)			
38.0 - 38.4	n (%)	2,119 (29)	593 (27)			
38.5 - 38.9	n (%)	1,781 (24)	508 (23)			
39.0 - 39.4	n (%)	938 (13)	235 (11)			
39.5 - 39.9	n (%)	298 (4)	71 (3)			
≥40.0	n (%)	69 (1)	21 (1)	<0.0001		
報告期間中の最高体温 (°C)	平均 ± 標準偏差	39.2 ± 0.6	39.1 ± 0.7	0.0003	383	282
	中央値 (範囲)	39.2 (35.7 - 42.0)	39.1 (36.4 - 41.3)	0.0003		
<37.5	n (%)	42 (1)	12 (1)			
37.5 - 37.9	n (%)	139 (2)	59 (3)			
38.0 - 38.4	n (%)	611 (9)	188 (10)			
38.5 - 38.9	n (%)	1,527 (22)	465 (24)			
39.0 - 39.4	n (%)	2,178 (31)	597 (31)			
39.5 - 39.9	n (%)	1,729 (25)	417 (21)			
≥40.0	n (%)	829 (12)	208 (11)	0.002		

* 連続変数のうち、「平均 ± 標準偏差」表記については Student の t 検定、「中央値 (範囲)」表記については Wilcoxon の順位和検定。カテゴリー変数についてはカイ 2 乗検定。

表 4-7. 既往歴

特性		オセルタミビル		P 値 *	不明	
		服薬あり (N=7,438)	服薬なし (N=2,228)		オセルタミビル 服薬あり	オセルタミビル 服薬なし
既往歴						
(あり)	n (%)	2,085 (28.2)	690 (31.1)	0.007	32	12
気管支喘息 (あり)	n (%)	1,275 (17.2)	413 (18.6)	0.123		
心疾患 (あり)	n (%)	40 (0.5)	10 (0.5)	0.610		
意識障害 (あり)	n (%)	5 (0.1)	7 (0.3)	0.004		
無熱性けいれん (あり)	n (%)	69 (0.9)	22 (1.0)	0.794		
熱性けいれん (あり)	n (%)	369 (5.0)	116 (5.2)	0.634		
異常行動・異常言動 (あり)	n (%)	91 (1.2)	45 (2.0)	0.005		

* カイ 2 乗検定。

表 4-8. 臨床症状 (1)

特性			オセルタミビル	オセルタミビル	P 値 *	不明	
			服薬あり (N=7,438)	服薬なし (N=2,228)		オセルタミビル 服薬あり	オセルタミビル 服薬なし
意識障害 (あり)	n (%)		65 (0.9)	14 (0.6)	0.258	22	6
うち、レベルについて情報が得られた者	N (%)		57 (100)	14 (100)			
I	n (%)		39 (68)	8 (57)			
II	n (%)		12 (21)	2 (14)			
III	n (%)		6 (11)	4 (29)	0.215		
オセルタミビル服薬後に意識障害を発現したことが明確な者	n (%)		58 (0.8)	—	—		
うち、レベルについて情報が得られた者	N (%)		51 (100)	—			
I	n (%)		35 (69)	—			
II	n (%)		11 (22)	—			
III	n (%)		5 (10)	—	—		
無熱性けいれん (あり)	n (%)		3 (0.04)	0 (0)	0.343	25	5
うち、型について情報が得られた者	N (%)		3 (100)	—			
単純型	n (%)		0 (0)	—			
複雑型	n (%)		3 (100)	—	—		
オセルタミビル服薬後に無熱性けいれんを発現したことが明確な者	n (%)		1 (0.01)	—	—		
うち、型について情報が得られた者	N (%)		1 (100)	—			
単純型	n (%)		0 (0)	—			
複雑型	n (%)		1 (100)	—	—		

* カイ 2 乗検定。

表 4-9. 臨床症状 (2)

特性		オセルタミビル		P 値 *	不明	
		服薬あり (N=7,438)	服薬なし (N=2,228)		オセルタミビル 服薬あり	オセルタミビル 服薬なし
熱性けいれん (あり)	n (%)	111 (1.5)	25 (1.1)	0.192	23	5
うち、型について情報が得られた者	N (%)	103 (100)	24 (100)			
単純型	n (%)	89 (86)	22 (92)			
複雑型	n (%)	14 (14)	2 (8)	0.484		
オセルタミビル服薬後に熱性けいれんを発現したことが明確な者	n (%)	60 (0.8)	—	—		
うち、型について情報が得られた者	N (%)	57 (100)	—			
単純型	n (%)	50 (88)	—			
複雑型	n (%)	7 (12)	—	—		
肺炎・気管支炎の併発 (あり)	n (%)	329 (4.4)	101 (4.5)	0.829	31	8
中耳炎の併発 (あり)	n (%)	46 (0.6)	17 (0.8)	0.458	32	9
筋炎の併発 (あり)	n (%)	13 (0.2)	3 (0.2)	0.681	42	9

* カイ 2 乗検定。

表 4-10. 治療薬剤

特性		オセルタミビル		P 値 *	不明	
		服薬あり	服薬なし		オセルタミビル	オセルタミビル
		(N=7,438)	(N=2,228)		服薬あり	服薬なし
アマンタジン (あり)	n (%)	3 (0.04)	18 (0.8)	<0.0001		
オセルタミビル (あり)	n (%)	7,438 (100)	107 (4.8)†	—		
ザナミビル (あり)	n (%)	26 (0.3)	846 (38.0)	<0.0001		
アセトアミノフェン (あり)	n (%)	3,959 (53.2)	1,114 (50.0)	0.008		
非ステロイド性抗炎症薬 (あり)	n (%)	267 (3.6)	105 (4.7)	0.016		
抗菌薬 (あり)	n (%)	1,265 (17.0)	463 (20.8)	<0.0001		
その他 (あり)	n (%)	3,952 (53.1)	1,469 (65.9)	<0.0001		

* カイ 2 乗検定。

† 異常行動・異常言動発現後にオセルタミビルを服薬した者。

表 5. 単変量・多変量解析

表 5-1. 「全異常行動・異常言動」に対する各要因のオッズ比および 95%信頼区間

	全異常行動・異常言動		Unconditional (OR(95%CI), P 値)				Conditional * (OR(95%CI), P 値)			
	あり									
	n / N (%)		Univariate		Multivariate †		Univariate		Multivariate †	
オセルタミビル服薬										
なし	286 / 2,228	(13)	1		1		1		1	
あり	840 / 7,438	(11)	0.86 (0.75 – 0.99)	0.047	0.69 (0.59 – 0.81)	<0.0001	0.82 (0.68 – 0.98)	0.030	0.62 (0.51 – 0.76)	<0.0001
性										
女	470 / 4,560	(10)	1		1		1		1	
男	656 / 5,106	(13)	1.28 (1.13 – 1.46)	<0.0001	1.28 (1.12 – 1.47)	0.0003	1.23 (1.08 – 1.41)	0.002	1.23 (1.07 – 1.42)	0.004
年齢 (歳)										
0 – 4	319 / 2,269	(14)	1		1		1		1	
5 – 9	587 / 4,132	(14)	1.01 (0.87 – 1.17)	0.872	1.05 (0.90 – 1.24)	0.533	1.04 (0.89 – 1.22)	0.634	1.06 (0.89 – 1.26)	0.524
≥10	220 / 3,263	(7)	0.44 (0.37 – 0.53)	<0.0001	0.52 (0.43 – 0.64)	<0.0001	0.49 (0.40 – 0.60)	<0.0001	0.55 (0.44 – 0.68)	<0.0001
			Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001	
当該シーズンの インフルエンザワクチン接種										
なし	618 / 5,876	(11)	1		1		1		1	
あり	474 / 3,587	(13)	1.30 (1.14 – 1.47)	<0.0001	1.20 (1.04 – 1.37)	0.010	1.23 (1.07 – 1.42)	0.004	1.14 (0.98 – 1.32)	0.094

(次ページに続く)

表 5-1. (続き)

	全異常行動・異常言動		Unconditional (OR(95%CI), P 値)				Conditional * (OR(95%CI), P 値)			
	あり									
	n / N (%)		Univariate		Multivariate †		Univariate		Multivariate †	
迅速診断キットによる										
インフルエンザの診断型										
B 型、型識別不能	449 / 4,601	(10)	1		1		1		1	
A 型、A・B 型両方	666 / 5,021	(13)	1.41 (1.25 – 1.61)	<0.0001	1.18 (1.03 – 1.36)	0.021	1.45 (1.24 – 1.70)	<0.0001	1.30 (1.09 – 1.56)	0.004
アセトアミノフェンの服薬										
なし	497 / 4,593	(11)	1		1		1		1	
あり	629 / 5,073	(12)	1.17 (1.03 – 1.32)	0.016	1.02 (0.89 – 1.17)	0.768	1.36 (1.16 – 1.60)	0.0002	1.09 (0.92 – 1.31)	0.320
異常行動・異常言動の既往										
なし	1,052 / 9,530	(11)	1		1		1		1	
あり	74 / 136	(54)	9.62 (6.82 – 13.6)	<0.0001	11.0 (7.53 – 16.0)	<0.0001	9.74 (6.50 – 14.6)	<0.0001	10.6 (6.88 – 16.4)	<0.0001
報告期間中の最高体温 (°C)										
<39.0	220 / 3,043	(7)	1		1		1		1	
39.0 – 39.4	304 / 2,775	(11)	1.58 (1.32 – 1.89)	<0.0001	1.52 (1.26 – 1.84)	<0.0001	1.53 (1.27 – 1.86)	<0.0001	1.48 (1.21 – 1.81)	0.0001
≥39.5	580 / 3,183	(18)	2.86 (2.43 – 3.37)	<0.0001	2.58 (2.16 – 3.08)	<0.0001	2.66 (2.23 – 3.18)	<0.0001	2.43 (2.00 – 2.94)	<0.0001
			Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001	

OR: オッズ比、CI: 信頼区間。

* 施設差を考慮。

† モデルに含めた変数は、表中の総ての要因。

表 5-2. 「異常行動・異常言動 A」に対する各要因のオッズ比および 95%信頼区間

	異常行動・異常言動 A		Unconditional (OR(95%CI), P 値)				Conditional † (OR(95%CI), P 値)			
	あり	n / N (%)	Univariate		Multivariate ‡		Univariate		Multivariate ‡	
オセルタミビル服薬										
なし		7 / 2,121 (0.3)	1		1		1		1	
あり		28 / 7,527 (0.4)	1.13 (0.49 – 2.59)	0.777	1.14 (0.47 – 2.81)	0.771	1.32 (0.47 – 3.66)	0.599	1.25 (0.37 – 4.23)	0.719
性										
女		9 / 4,552 (0.2)	1		1		1		1	
男		26 / 5,096 (0.5)	2.59 (1.21 – 5.53)	0.014	2.78 (1.25 – 6.18)	0.013	2.18 (0.99 – 4.82)	0.054	2.53 (1.04 – 6.13)	0.041
年齢 (歳)										
0 – 4		8 / 2,262 (0.4)	1		1		1		1	
5 – 9		16 / 4,126 (0.4)	1.10 (0.47 – 2.57)	0.831	0.91 (0.36 – 2.27)	0.836	0.96 (0.38 – 2.41)	0.929	0.72 (0.25 – 2.08)	0.545
≥10		11 / 3,258 (0.3)	0.95 (0.38 – 2.38)	0.920	1.03 (0.39 – 2.75)	0.946	0.85 (0.31 – 2.31)	0.752	0.74 (0.24 – 2.31)	0.599
			Trend P=0.890		Trend P=0.914		Trend P=0.745		Trend P=0.624	
当該シーズンの インフルエンザワクチン接種										
なし		24 / 5,867 (0.4)	1		1		1		1	
あり		10 / 3,579 (0.3)	0.68 (0.33 – 1.43)	0.311	0.60 (0.28 – 1.31)	0.202	0.75 (0.33 – 1.73)	0.505	0.62 (0.25 – 1.51)	0.288

(次ページに続く)

表 5-2. (続き)

	異常行動・異常言動 A		Unconditional (OR(95%CI), P 値)				Conditional † (OR(95%CI), P 値)			
	あり									
	n / N (%)		Univariate		Multivariate ‡		Univariate		Multivariate ‡	
迅速診断キットによる										
インフルエンザの診断型										
B 型、型識別不能	14 / 4,594	(0.3)	1		1		1		1	
A 型、A・B 型両方	20 / 5,011	(0.4)	1.31 (0.66 – 2.60)	0.438	1.37 (0.65 – 2.87)	0.407	1.04 (0.43 – 2.53)	0.926	0.84 (0.31 – 2.27)	0.734
アセトアミノフェンの服薬										
なし	18 / 4,583	(0.4)	1		1		1		1	
あり	17 / 5,065	(0.3)	0.85 (0.44 – 1.66)	0.642	0.82 (0.41 – 1.64)	0.575	0.97 (0.41 – 2.32)	0.948	1.05 (0.40 – 2.77)	0.918
異常行動・異常言動の既往										
なし	29 / 9,514	(0.3)	1		1		1		1	
あり	6 / 134	(4.5)	15.3 (6.26 – 37.6)	<0.0001	16.7 (6.60 – 42.4)	<0.0001	7.49 (2.34 – 24.0)	0.001	9.66 (2.65 – 35.3)	0.001
報告期間中の最高体温 (°C)										
<39.0	5 / 3,043	(0.2)	1		1		1		1	
39.0 – 39.4	14 / 2,768	(0.5)	3.09 (1.11 – 8.58)	0.031	3.09 (1.10 – 8.70)	0.032	3.03 (0.94 – 9.70)	0.063	2.86 (0.83 – 9.90)	0.097
≥39.5	15 / 3,173	(0.5)	2.88 (1.05 – 7.95)	0.040	2.58 (0.90 – 7.41)	0.079	2.79 (0.86 – 9.04)	0.088	2.57 (0.72 – 9.09)	0.144
			Trend P=0.053		Trend P=0.112		Trend P=0.136		Trend P=0.216	

OR : オッズ比、CI : 信頼区間。

* 解析対象 9,666 人のうち、異常行動・異常言動の有無に「あり」と回答したが A-E の分類が欠損値であった者 (18 人) を除外した 9,648 人で解析。なお、異常行動・異常言動 B-E を発現した者は「異常行動・異常言動 A なし」として取り扱った。† 施設差を考慮。‡ モデルに含めた変数は、表中の総ての要因。

表 5-3. 「異常行動・異常言動 B・E」に対する各要因のオッズ比および 95%信頼区間

	異常行動・異常言動 B-E		Unconditional (OR(95%CI), P 値)				Conditional † (OR(95%CI), P 値)			
	あり									
	n / N (%)		Univariate		Multivariate †		Univariate		Multivariate †	
オセルタミビル服薬										
なし	277 / 2,219	(12)	1		1		1		1	
あり	796 / 7,394	(11)	0.85 (0.73 - 0.98)	0.024	0.67 (0.57 - 0.79)	<0.0001	0.79 (0.66 - 0.96)	0.015	0.60 (0.49 - 0.74)	<0.0001
性										
女	453 / 4,543	(10)	1		1		1		1	
男	620 / 5,070	(12)	1.26 (1.11 - 1.43)	0.001	1.26 (1.10 - 1.44)	0.001	1.22 (1.06 - 1.39)	0.004	1.22 (1.06 - 1.41)	0.007
年齢 (歳)										
0 - 4	304 / 2,254	(13)	1		1		1		1	
5 - 9	565 / 4,110	(14)	1.02 (0.88 - 1.19)	0.773	1.07 (0.91 - 1.26)	0.442	1.06 (0.90 - 1.25)	0.492	1.08 (0.90 - 1.29)	0.404
≥10	204 / 3,247	(6)	0.43 (0.36 - 0.52)	<0.0001	0.51 (0.41 - 0.62)	<0.0001	0.48 (0.39 - 0.59)	<0.0001	0.53 (0.42 - 0.67)	<0.0001
			Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001	
当該シーズンの インフルエンザワクチン接種										
なし	585 / 5,843	(10)	1		1		1		1	
あり	456 / 3,569	(13)	1.32 (1.16 - 1.50)	<0.0001	1.22 (1.06 - 1.40)	0.005	1.25 (1.08 - 1.44)	0.003	1.16 (0.99 - 1.35)	0.055

(次ページに続く)

表 5-3. (続き)

	異常行動・異常言動 B-E		Unconditional (OR(95%CI), P 値)				Conditional † (OR(95%CI), P 値)			
	あり		Univariate		Multivariate †		Univariate		Multivariate †	
	n / N (%)									
迅速診断キットによる										
インフルエンザの診断型										
B 型、型識別不能	428 / 4,580	(9)	1		1		1		1	
A 型、A・B 型両方	636 / 4,991	(13)	1.42 (1.24 – 1.61)	<0.0001	1.18 (1.02 – 1.37)	0.023	1.48 (1.26 – 1.74)	<0.0001	1.34 (1.11 – 1.60)	0.002
アセトアミノフェンの服薬										
なし	469 / 4,565	(10)	1		1		1		1	
あり	604 / 5,048	(12)	1.19 (1.05 – 1.35)	0.009	1.04 (0.90 – 1.19)	0.598	1.39 (1.18 – 1.64)	0.0001	1.11 (0.92 – 1.33)	0.267
異常行動・異常言動の既往										
なし	1,007 / 9,485	(11)	1		1		1		1	
あり	66 / 128	(52)	8.96 (6.30 – 12.8)	<0.0001	9.81 (6.66 – 14.5)	<0.0001	9.49 (6.25 – 14.4)	<0.0001	10.4 (6.62 – 16.3)	<0.0001
報告期間中の最高体温 (°C)										
<39.0	215 / 3,038	(7)	1		1		1		1	
39.0 – 39.4	283 / 2,754	(10)	1.50 (1.25 – 1.81)	<0.0001	1.43 (1.18 – 1.74)	0.0003	1.46 (1.20 – 1.78)	0.0001	1.41 (1.14 – 1.73)	0.001
≥39.5	555 / 3,158	(18)	2.80 (2.37 – 3.31)	<0.0001	2.50 (2.09 – 2.99)	<0.0001	2.61 (2.18 – 3.12)	<0.0001	2.35 (1.94 – 2.85)	<0.0001
			Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001		Trend P<0.0001	

OR: オッズ比、CI: 信頼区間。

* 解析対象 9,666 人のうち、異常行動・異常言動の有無に「あり」と回答したが A-E の分類が欠損値であった者 (18 人)、異常行動・異常言動 A を発現した者 (35 人) を除外した 9,613 人で解析。

† 施設差を考慮。‡ モデルに含めた変数は、表中の総ての要因。

表 5-4. 10 歳未満に限定した場合の、各異常行動・異常言動に対するオッズ比および 95%信頼区間 (unconditional)

	全異常行動・異常言動		異常行動・異常言動 A		異常行動・異常言動 B・E	
	Univariate	Multivariate *	Univariate	Multivariate *	Univariate	Multivariate *
オセルタミビル服薬 (あり)	0.74 (0.63 - 0.88)	0.65 (0.55 - 0.78)	0.87 (0.32 - 2.34)	0.95 (0.32 - 2.85)	0.73 (0.62 - 0.87)	0.64 (0.54 - 0.77)
性 (男)	1.20 (1.04 - 1.38)	1.19 (1.03 - 1.39)	1.79 (0.77 - 4.20)	1.92 (0.78 - 4.74)	1.19 (1.03 - 1.37)	1.19 (1.02 - 1.38)
年齢 (0 - 4 / 5 - 9 歳)	1.01 (0.87 - 1.17)	1.03 (0.88 - 1.21)	1.10 (0.47 - 2.57)	0.97 (0.38 - 2.45)	1.02 (0.88 - 1.19)	1.04 (0.89 - 1.23)
当該シーズンの インフルエンザワクチン接種 (あり)	1.18 (1.03 - 1.37)	1.19 (1.02 - 1.38)	0.60 (0.25 - 1.45)	0.52 (0.20 - 1.33)	1.19 (1.03 - 1.38)	1.21 (1.04 - 1.40)
迅速診断キットによるインフルエンザの 診断型 (A 型、A・B 型両方)	1.21 (1.05 - 1.41)	1.17 (0.99 - 1.37)	1.26 (0.53 - 2.98)	1.39 (0.54 - 3.56)	1.21 (1.04 - 1.40)	1.17 (0.99 - 1.38)
アセトアミノフェンの服薬 (あり)	1.17 (1.01 - 1.34)	1.03 (0.88 - 1.19)	0.65 (0.29 - 1.46)	0.62 (0.27 - 1.46)	1.19 (1.03 - 1.38)	1.05 (0.90 - 1.22)
異常行動・異常言動の既往 (あり)	10.3 (6.70 - 15.8)	10.8 (6.82 - 17.2)	10.3 (3.02 - 35.2)	11.8 (3.29 - 42.5)	9.93 (6.43 - 15.3)	10.1 (6.33 - 16.2)
報告期間中の最高体温 (°C)						
<39.0	1	1	1	1	1	1
39.0 - 39.4	1.39 (1.13 - 1.71)	1.46 (1.17 - 1.81)	4.58 (1.003 - 20.9)	4.69 (1.02 - 21.6)	1.32 (1.07 - 1.63)	1.37 (1.10 - 1.71)
≥39.5	2.24 (1.86 - 2.71)	2.29 (1.87 - 2.80)	3.89 (0.86 - 17.6)	3.57 (0.76 - 16.7)	2.18 (1.81 - 2.64)	2.22 (1.81 - 2.72)
	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001	Trend P=0.118	Trend P=0.175	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001

表中の数値は、オッズ比 (95%信頼区間)。* モデルに含めた変数は、表中の総ての要因。

表 5-5. 10 歳未満に限定した場合の、各異常行動・異常言動に対するオッズ比および 95%信頼区間 (conditional *)

	全異常行動・異常言動		異常行動・異常言動 A		異常行動・異常言動 B-E	
	Univariate	Multivariate †	Univariate	Multivariate †	Univariate	Multivariate †
オセルタミビル服薬 (あり)	0.71 (0.58 - 0.89)	0.60 (0.47 - 0.76)	1.15 (0.32 - 4.08)	0.91 (0.17 - 4.95)	0.70 (0.56 - 0.87)	0.59 (0.46 - 0.75)
性 (男)	1.14 (0.98 - 1.32)	1.13 (0.96 - 1.33)	1.53 (0.62 - 3.78)	2.58 (0.82 - 8.14)	1.13 (0.97 - 1.32)	1.13 (0.96 - 1.33)
年齢 (0 - 4 / 5 - 9 歳)	1.04 (0.88 - 1.22)	1.04 (0.87 - 1.25)	0.99 (0.38 - 2.60)	0.62 (0.19 - 2.07)	1.06 (0.90 - 1.25)	1.06 (0.88 - 1.28)
当該シーズンの インフルエンザワクチン接種 (あり)	1.16 (0.99 - 1.36)	1.16 (0.98 - 1.37)	0.59 (0.22 - 1.56)	0.33 (0.10 - 1.08)	1.17 (0.99 - 1.38)	1.19 (0.99 - 1.41)
迅速診断キットによるインフルエンザ の診断型 (A 型、A・B 型両方)	1.24 (1.03 - 1.50)	1.30 (1.05 - 1.60)	0.65 (0.20 - 2.17)	0.31 (0.07 - 1.38)	1.26 (1.04 - 1.52)	1.34 (1.08 - 1.65)
アセトアミノフェンの服薬 (あり)	1.44 (1.19 - 1.74)	1.17 (0.96 - 1.44)	0.83 (0.30 - 2.30)	1.13 (0.34 - 3.80)	1.48 (1.22 - 1.80)	1.20 (0.97 - 1.48)
異常行動・異常言動の既往 (あり)	9.82 (6.00 - 16.1)	10.3 (6.12 - 17.4)	7.96 (1.45 - 43.7)	17.8 (1.93 - 164)	10.1 (6.04 - 16.8)	10.7 (6.22 - 18.5)
報告期間中の最高体温 (°C)						
<39.0	1	1	1	1	1	1
39.0 - 39.4	1.38 (1.10 - 1.73)	1.42 (1.12 - 1.80)	4.02 (0.80 - 20.2)	6.96 (1.07 - 45.4)	1.31 (1.04 - 1.65)	1.35 (1.06 - 1.72)
≥39.5	2.19 (1.78 - 2.70)	2.18 (1.74 - 2.73)	3.74 (0.72 - 19.3)	6.28 (0.86 - 50.0)	2.13 (1.73 - 2.63)	2.11 (1.69 - 2.65)
	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001	Trend P=0.177	Trend P=0.110	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001

表中の数値は、オッズ比 (95%信頼区間)。* 施設差を考慮。† モデルに含めた変数は、表中の総ての要因。

表 5-6. 10 歳以上に限定した場合の、各異常行動・異常言動に対するオッズ比および 95%信頼区間 (unconditional)

	全異常行動・異常言動		異常行動・異常言動 A		異常行動・異常言動 B-E	
	Univariate	Multivariate *	Univariate	Multivariate *	Univariate	Multivariate *
オセルタミビル服薬 (あり)	0.97 (0.72 - 1.31)	0.80 (0.58 - 1.10)	1.80 (0.39 - 8.34)	1.41 (0.30 - 6.78)	0.91 (0.67 - 1.23)	0.75 (0.54 - 1.03)
性 (男)	1.71 (1.29 - 2.28)	1.72 (1.27 - 2.33)	8.95 (1.15 - 70.0)	8.86 (1.12 - 70.3)	1.62 (1.21 - 2.17)	1.63 (1.19 - 2.23)
年齢 (1 歳上昇毎)	0.65 (0.59 - 0.72)	0.64 (0.58 - 0.72)	0.77 (0.52 - 1.15)	0.74 (0.48 - 1.15)	0.65 (0.58 - 0.72)	0.64 (0.57 - 0.72)
当該シーズンの インフルエンザワクチン接種 (あり)	1.22 (0.91 - 1.64)	1.10 (0.80 - 1.51)	0.90 (0.24 - 3.40)	0.67 (0.16 - 2.72)	1.29 (0.95 - 1.74)	1.15 (0.83 - 1.59)
迅速診断キットによるインフルエンザの 診断型 (A 型、A・B 型両方)	1.30 (0.99 - 1.72)	1.14 (0.84 - 1.54)	1.41 (0.43 - 4.62)	1.25 (0.36 - 4.29)	1.30 (0.97 - 1.73)	1.14 (0.84 - 1.56)
アセトアミノフェンの服薬 (あり)	1.19 (0.91 - 1.57)	1.05 (0.78 - 1.42)	1.57 (0.46 - 5.37)	1.62 (0.44 - 5.94)	1.20 (0.90 - 1.59)	1.03 (0.76 - 1.41)
異常行動・異常言動の既往 (あり)	9.95 (5.39 - 18.4)	11.9 (5.97 - 23.5)	29.3 (7.51 - 115)	28.7 (6.80 - 121)	8.23 (4.25 - 16.0)	9.63 (4.62 - 20.1)
報告期間中の最高体温 (°C)						
< 39.0	1	1	1	1	1	1
39.0 - 39.4	1.69 (1.15 - 2.47)	1.66 (1.11 - 2.47)	1.98 (0.44 - 8.85)	1.97 (0.42 - 9.22)	1.61 (1.08 - 2.39)	1.55 (1.02 - 2.34)
≥ 39.5	3.86 (2.74 - 5.44)	3.85 (2.67 - 5.55)	2.35 (0.52 - 10.5)	1.83 (0.38 - 8.83)	3.82 (2.68 - 5.48)	3.75 (2.58 - 5.46)
	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001	Trend P=0.255	Trend P=0.448	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001

表中の数値は、オッズ比 (95%信頼区間)。* モデルに含めた変数は、表中の総ての要因。

表 5-7. 10 歳以上に限定した場合の、各異常行動・異常言動に対するオッズ比および 95%信頼区間 (conditional *)

	全異常行動・異常言動		異常行動・異常言動 A		異常行動・異常言動 B-E	
	Univariate	Multivariate †	Univariate	Multivariate †	Univariate	Multivariate †
オセルタミビル服薬 (あり)	0.97 (0.62 - 1.52)	0.89 (0.53 - 1.49)	0.91 (0.15 - 5.68)	1.54 (0.09 - 26.2)	0.95 (0.59 - 1.51)	0.82 (0.48 - 1.41)
性 (男)	1.55 (1.12 - 2.13)	1.71 (1.19 - 2.47)	6.73 (0.78 - 57.7)	28.7 (1.10 - 749)	1.50 (1.07 - 2.09)	1.63 (1.12 - 2.39)
年齢 (1 歳上昇毎)	0.66 (0.59 - 0.75)	0.65 (0.56 - 0.75)	0.73 (0.43 - 1.23)	0.69 (0.27 - 1.74)	0.66 (0.58 - 0.75)	0.65 (0.56 - 0.75)
当該シーズンの インフルエンザワクチン接種 (あり)	1.11 (0.79 - 1.57)	1.04 (0.70 - 1.55)	1.01 (0.19 - 5.36)	0.65 (0.06 - 6.80)	1.16 (0.81 - 1.66)	1.04 (0.69 - 1.58)
迅速診断キットによるインフルエンザ の診断型 (A 型、A・B 型両方)	1.56 (1.03 - 2.34)	1.50 (0.94 - 2.37)	2.29 (0.32 - 16.6)	7.16 (0.38 - 136)	1.60 (1.05 - 2.44)	1.52 (0.95 - 2.45)
アセトアミノフェンの服薬 (あり)	1.07 (0.72 - 1.59)	0.86 (0.54 - 1.36)	1.41 (0.13 - 15.8)	31.0 (0.04 - 25364)	1.06 (0.71 - 1.60)	0.82 (0.51 - 1.31)
異常行動・異常言動の既往 (あり)	13.8 (5.14 - 37.1)	12.7 (4.50 - 35.8)	10.3 (0.94 - 114)	128 (0.34 - 47713)	13.6 (4.64 - 40.1)	12.3 (3.92 - 38.2)
報告期間中の最高体温 (°C)						
< 39.0	1	1	1	1	1	1
39.0 - 39.4	1.61 (1.04 - 2.51)	1.72 (1.06 - 2.79)	2.04 (0.35 - 12.0)	1.54 (0.12 - 19.8)	1.51 (0.95 - 2.38)	1.62 (0.98 - 2.68)
≥ 39.5	3.61 (2.41 - 5.43)	4.07 (2.58 - 6.42)	1.07 (0.16 - 7.25)	2.11 (0.17 - 26.6)	3.76 (2.47 - 5.72)	4.10 (2.57 - 6.55)
	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001	Trend P=0.985	Trend P=0.563	Trend P<0.0001	Trend P<0.0001

表中の数値は、オッズ比 (95%信頼区間)。* 施設差を考慮。† モデルに含めた変数は、表中の総ての要因。

別表 1. 「異常行動・異常言動発現後にオセルタミビルを服薬した」ために「オセルタミビル服薬なし」として取り扱った者の特性（経過時間）

特性	「異常行動・異常言動発現後にオセルタミビルを服薬した」ために 「オセルタミビル服薬なし」として取り扱った者 (N=107)			不明*
最初発熱→オセルタミビル服薬（時間）	平均 ± 標準偏差	30.0 ± 14.7		2 (1)
	中央値（範囲）	28 (4 - 68)		
	<0† n (%)	0 (0)		
	≥0 n (%)	105 (100)		
	平均 ± 標準偏差	30.0 ± 14.7		
	中央値（範囲）	28 (4 - 68)		
初診→オセルタミビル服薬（時間）	平均 ± 標準偏差	24.6 ± 16.7		2 (2)
	中央値（範囲）	24 (2 - 79)		
	<0‡ n (%)	0 (0)		
	≥0 n (%)	105 (100)		
	平均 ± 標準偏差	24.6 ± 16.7		
	中央値（範囲）	24 (2 - 79)		
オセルタミビル服薬→全異常行動・異常言動（時間）	平均 ± 標準偏差	-12.6 ± 10.0		1 (1)
	中央値（範囲）	-12 (-45 - 0)		

* 括弧の中は、不明数のうち、経過時間の計算上 ± 96 時間以上であったために不合理であると考え、「不明」として取り扱った数。

† オセルタミビル服薬後に最初の発熱があった者（例：咳・咽頭痛・鼻汁など、発熱以外の症状で受診し、処方されたオセルタミビルを服薬後に発熱）。

‡ オセルタミビル服薬後に初診した者（例：初診前に夜間診療所でオセルタミビルを処方され服薬。兄弟に処方されたオセルタミビルを服薬）。

別表 2. 「異常行動・異常言動発現後にオセルタミビルを服薬した」ために「オセルタミビル服薬なし」として取り扱った者の特性（臨床症状）

特性	「異常行動・異常言動発現後にオセルタミビルを服薬した」ために 「オセルタミビル服薬なし」として取り扱った者 (N=107)	
オセルタミビル服薬後に意識障害を発現したことが明確な者	n (%)	7 (7)
うち、レベルについて情報が得られた者	N (%)	7 (100)
I	n (%)	5 (71)
II	n (%)	0 (0)
III	n (%)	2 (29)
オセルタミビル服薬後に熱性けいれんを発現したことが明確な者	n (%)	21 (20)
うち、レベルについて情報が得られた者	N (%)	20 (100)
単純型	n (%)	19 (95)
複雑型	n (%)	1 (5)

参考 1
